

## 学会記事

### 2008年度 第6回理事会 議事録

2008年11月25日  
日本地質学会  
会長 宮下純夫

期 日：2008年11月8日（土）

13：30～18：30

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長、佃副会長、高木副会長、  
渡部常務理事・井龍・石渡（3時まで）・  
上砂・倉本・坂口・久田・藤林・向山（各  
理事）、橋辺（事務局）

欠席者：藤本副常務理事・岩森・齋藤・矢  
鳥、委任なし：小嶋

\* 成立員数（12/17）に対し、出席者13名、  
委任状4名、欠席者1名で、理事会は成立。

#### ○報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉  
本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

・ゼオライト学会より、国際会議  
「ZMPC2009 (International Symposium  
on Zeolites and Microporous Crystals  
2009)」(2009年8月3日～8月7日、早  
稲田大学)の共催依頼を承諾。

・松岡 篤（新潟大学理学部地質科学科）  
会員より、琉球大学熱帯生物圏研究セン  
ター共同利用研究会「有殻原生生物プラ  
ンクトン研究はどこに向かうのか」  
(2008年11月28日-29)の後援依頼を承  
諾。

・加藤碩一会員より、石専門の写真家須田  
郡司氏の「世界石巡礼」(2009年4月開  
始)を後援する団体となるかの伺いにつ  
いて：後援依頼を須田氏から学会宛に提  
出いただくよう、加藤会員に依頼するこ  
ととした。

\*その後、本人から後援依頼が正式に届  
き、メールで検討の結果、後援を承諾  
した。

・大学評価・学位授与機構から依頼のあ  
った専門委員について、先月の理事会で選  
出の5名の候補者に依頼したところ、3  
名から辞退の申し入れがあり、2名の方  
を推薦した。

・第21期学術会議会長：金澤一郎、副会  
長：大垣真一郎・鈴木興太郎・唐木英明  
・とやま賞へは、石崎泰男会員（富山大学）  
を推薦することとし、本人の承諾を得た。

・アイソトープ協会から第46回アイソト  
ープ・放射線研究発表会の共催依頼があ  
り、例年通り承諾。運営委員1名の推薦

については前年に続いて、産総研の小笠  
原正継会員に依頼することとし、その後、  
本人の了解を得た。

・国立情報学研究所（NII）と科学技術振  
興機構（JST）それぞれのNII-ELSとJ-  
STAGEの運営に関して、両法人の連  
携・協力によりジャーナルアーカイブ  
推進する目的で覚書を締結した。これに  
よって、重複した電子化を行わないなど  
の便宜が図られることになる。

・財）交流協会から日台科学技術交流事業  
案内として経費助成（若手研究者交流、  
セミナー・シンポジウム、共同研究）の  
募集があった（メ切12/25）。Geo-flash、  
News誌に掲載。

会員関係（担当理事-向山）

1) 入会者 3名（正3）

（正3）菅家奈未 吉川幸叙 北村栄一

2) 退会者（正1名）内田良始

3) 逝去者（正1名）本田 裕（10/13）

井龍理事が追悼文を手配することとし  
た。なお、追悼文の掲載スペースは基本  
的に同一で、名誉会員のみ写真の扱いが  
異なることを確認した。

4) 10月末日会員数

賛助33, 名誉76, 正4,331（うち院245）,  
準28, 合計4,468（前年同期比-107）

5) 石渡理事より、故都域名誉会員追悼記  
事のインド地質学会への英文版の転載の  
報告。

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・連合法人化準備委員会（高木委員）

第4回準備会を10月24日に開催し、準備  
会として定款案が承認された。第5回準備  
会（最終の予定）は11月21日（金）に  
実施。地質学会理事会からは新法人の設  
立時社員として石渡理事と高木副会長が  
捺印。11月13日の拡大評議員会には、学  
会から正副会長のいずれかが必ず出席す  
ることとした。

会計関係（担当理事-向山）

・会計管理システム老朽化に伴い、新たな  
公益法人会計システム（大塚商会）に交  
換した。

内容は、ソフトウエア+設置・指導料等  
で70万円相当、ハードウエア+数万円相  
当で、5千円程度/月のリースとなる。

広報委員会（担当理事-倉本=情報特任・  
坂口）

・地質学雑誌表紙の最終デザイン候補。

2. 学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長-齋藤）

・岡山大会の市民講演会「大地から考える  
地球環境—地質と生物・農業の深い関係  
—」の科研費を申請した。開催場所は山  
陽新聞サン太ホールで、科研費申請を総  
経費80万円程度のベースで行った。

講師 波田善夫（岡山理科大学学長）  
「地質と生き物と人々の生活—ヨーロッ  
パそして岡山の風景—（仮題）」

武田 弘（東京大学名誉教授）「おしい  
ワインのできる畑の地球環境（仮題）」

・岡山大会での地質情報展は、岡山駅近傍  
のデジタルミュージアムを会場とする。  
ジオパーク関連企画等を学会主催で  
実施する場合には、情報展会場のホール  
を使用する方向で検討を続けることとし  
た。

国際交流委員会（担当理事-石渡=国際特  
任理事）

・日-蒙の国際協定締結および交流につ  
いて  
両会長の交流のキックオフとして、2009  
年のモンゴル地質学会記念事業も見越し  
て、協定締結の挨拶を日本側から送付す  
ることとした。

・International Groundwater Symposium  
2009 (Thailand/Bangkok) の件：来年  
2月開催のため、Geo flash等で会員に  
お知らせすることとした。

3. 編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩  
森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長-久田 副  
委員長-小嶋，岩森=企画担当）

・今月の編集状況は以下の通り（11月7日  
現在）。

114-11月号：論説3 短報1 報告1  
(50ページ，校正中)

114-12月号：論説2 ほか未定

2008年度投稿論文総数110編 [論説73  
(和文67 欧文6)，総説19 (和文19) 短  
報9 (和文6 欧文3)，討論2 報告  
2 ノート4] 口絵7 (和文4 欧文2)  
投稿数昨年比 +47 査読中89編 受理  
済み5編 (うち 論説2 特集号3)

・投稿規程一部修正。

・115巻1号掲載論文より、英語要旨のネ  
イティブチェック開始。

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事  
務局長-竹内圭史・角替敏昭）

・編集状況報告。

企画出版委員会（担当理事-藤林）

・地方地質誌「関東地方」が刊行（10/30）  
された。

4. 普及教育事業部会（部会長-矢島、藤林）  
国際地学オリンピック日本委員会（久田）  
・NPO法人の申請を準備し、現在縦覧中、  
来年2月中旬に設立を見込み進めている。  
この法人はJSTの補助金申請の為の  
条件となるもの。

5. 各委員会等

ジオパーク支援委員会（担当理事-佃、委  
員長-天野）

支援委員会によるジオパークのパンフレッ  
トを作成中。素案を回覧した。

- ・日本ジオパーク委員会（高木委員）  
第3回委員会（10月20日）に、ユネスコ  
に申請する世界ジオパークネットワーク  
（GGN）3件（洞爺湖有珠山・糸魚川・  
島原半島）を決定した。  
12月8日の第4回委員会では日本ジオパー  
クネットワーク登録地域（申請中2件、  
GGNに漏れた2件が対象）を決定。  
2009年2月20日に日本ジオパークネット  
ワークの認証式を実施。

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡  
部）

- ・第5回委員会を開催（11/04）。  
定款認証のための確定と法人登記申請手  
続きについて検討。
- ・11/6 公証役場に向向き 定款認証のた  
めの相談をする。13日に返事をするとの  
こと。  
この結果について対応を行い、理事会で  
確認後、臨時総会資料とすることとした。
- ・事務局執務環境の改善に向けて、副会長  
以下のWGが事務局と検討を進め、年度  
内に可能な対応を行うこととした。具体  
的には、不要物品の整理と会議スペース  
の確保、勤務環境の安全衛生のための  
パーティション・控えスペースの確保、  
その他である。

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）

- ・第1号事件、第2号事件の除名申請人よ  
り、委員会から発出した通知書の回答が  
9月10日、9月23日付けであり、法務委  
員会を10月15日に開催した。
- ・次回法務委員会を11月17日に開催する予  
定である。上記、除名申請案件について  
の方向性を決定し、さらに法人規則の検  
討を行う予定。

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-  
佃副会長）

- ・推薦委員会委員のうち、階層別委員と理  
事会委員の選出  
大学、小中高、官公庁、会社、理事 各  
1名（←審議事項へ）  
その他7名の支部長

6. 地質の日委員会（藤林委員）

- ・選定中のロゴについては、11月末に決  
定・通知予定。
- ・『地質ニュース』の特集号は2号のうち  
1号分はすでに原稿が集まり編集集中。
- ・地学教育・普及に関係するが、新潟で  
「地域の自然をと科学教育の素材」のシ  
ンポ（理科教育）を3月16日に開催する  
ので、地震関係の講演を構造部会からお  
願いしたい。

○審議事項

1. 法人定款認証および申請登記に関する件  
・登記時資料とする定款最終案での変更事  
項について説明承認。11月13日以降に公  
証人役場から回答をいただいて最終資料  
を作成し、理事会で承認後、臨時総会資  
料とする。12月1日に登記続きを予定す  
る。  
・検討事項であった社員数については、こ  
れまでの運営通り会員数の25分の1と  
し、その内容は地方支部枠合計100名、  
全国枠70名とすることとした。定款で目  
的と事業を同一の条文に記述することを  
承認した。
2. 臨時総会について、懇親会について  
・出欠の予備アンケートでの現在までの出  
席予定者20名程度。  
・臨時総会資料の最終確認と、来年度事業  
計画を評議いただくために、総会会場で  
12月定例評議員会を行うこととし、至急  
評議員に通知することとした。
3. 来年度事業方針案（会長）、事業計画案  
（各部会担当理事）、予算計画概要案（会計  
担当理事）の確認と評議員会資料化。
4. 12月評議員会を臨時総会で実施する際の  
議題について  
以下の内容として、1時間程度を予定する  
こととした。  
1) 来年度事業方針案、来年度事業計画案、  
予算計画案  
2) 総会資料における、9月評議員会以降の  
変更内容の説明と了承。  
3) その他
5. 来年度以降の事務局体制について  
本年度末の橋辺事務局長の定年ならびに法  
人化業務の効率の実施のための事務局雇用体  
制の再検討を担当理事（常務・副常務・運営  
財政担当・会見担当各理事）が検討を行った  
結果を報告し、以下の通り理事会が決定した。  
・いわゆる外部対応等を主務とする事務局  
長は来年度から置かない。  
・事務局を掌握責任を持つ理事会担当理事  
を置き、決裁権の一部を事務局の長（後  
述）に与えて日々の管理をお願いする。  
・事務局員は事務局員→事務局主任→事務  
長の事務職キャリアパスで昇格させる。  
・併せて、来年度から一定期間、事務局管

理の業務を担う参与ポストを置き、単年  
度契約で招聘する。

- ・橋辺さんには、年間契約でこのポストに  
招聘して事務局員の指導管理を引き続き  
お願いする。
- ・今後の事務局体制の安定性確保に向け  
て、1名の新人採用を将来的に目指すこ  
ととし、試験採用等を通じて年度内の多  
忙時のパート雇用等を開始する。
- ・将来的には2名の局員に上記パスで昇格  
していただき、事務局の管理を担当する  
職員が誕生するまでは、参与ポストに橋  
辺現事務局長が就いていただくことを希  
望する。

以上の事務局体制の再検討にあわせて、事  
務局業務自体の効率化も目指し、編集関連業  
務等を委員会や業者に移す等、実効的な案を  
各委員会等をお願いする。

6. その他

- 1) 08年度最後の評議員会開催日について  
2009年4月4日（予定）北とびあ会議室予  
約済み。
- 2) 名誉会員推薦委員会委員の選出  
検討の結果、八尾（大学）、紺谷（小中高）、  
植村（公官庁）、足立（会社）、石渡（理事会）  
の各会員を推薦委員に選出し、本人の承諾を  
得たうえで依頼することとした。

## 2008年度 第7回理事会 議事録

2009年1月26日  
日本地質学会  
会長 宮下純夫

期 日：2008年11月30日（日）

10：00～11：30

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長、高木副会長、渡部常務理  
事 藤本副常務理事 井龍 石渡 上砂  
倉本 齋藤 坂口 向山（各理事）、保柳  
評議員会議長、橋辺（事務局）

欠席者：佃副会長、小嶋 藤林\* 矢島\*、  
（委任なし）岩森・久田

\*地学教育委員会に出席のため欠席

\*成立員数（12/17）に対し、出席者 11名、  
委任状 4名、欠席者 2名で、理事会は  
成立。

○報告その他

1. とやま賞の推薦文についての確認
2. 富士山学術的看板設置調整委員会（荒牧  
重雄委員長）より、看板設置推進の提案書  
を関係機関に送付する件についての賛同要  
請があり、承諾することとした。  
共同団体：富士学会、火山学会、地質学  
会、地理学会、第四紀学会、地学協会、

国際地図学会

3. 地理関連学会連合よりの、「東大・空間情報科学研究センターの全国共同利用・共同研究拠点」継続申請に関する要望書提出の要請について、

地理関連学会連合としては、要望書を提出するが、各学会はそれぞれ検討してほしいとの要請があった。地質学会としては要望書提出に特段の必要性は認めないが、専門部会に回送して、部会ごとの必要に応じて検討と対応をしてもらうこととした。

#### ○審議事項

1. 総会議案の確認および議事進行について打ち合わせた。
2. 評議員会の評議事項の確認と議事進行について、保柳議長と打ち合わせた。
3. その他、以下について検討した。
  - 1) 一般社団法人設立総会等について。
  - 2) 法人化後の移行スケジュール、公益認定申請等について。

## 2008年度 第8回理事会 議事録

2009年1月10日  
日本地質学会  
会長 宮下純夫

期 日：2008年12月13日（土）

13：00～17：00

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長、高木副会長、佃副会長（早退）、渡部常務理事 藤本副常務理事 井龍 石渡 上砂 倉本 齋藤 坂口 久田 向山 矢島（各理事）、藤林（教科「理科」関連学会協議会 [CSERS] シンポジウムのため遅れて出席）橋辺（事務局）  
欠席者：岩森 小嶋

\* 成立員数（12/17）に対し、出席者 15名、委任状 2名、欠席者 0名で、理事会は成立。

#### ○報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、向山、倉本、坂口）  
総務委員会（委員長-上砂）

1. 地理関連学会連合よりの、「東大・空間情報科学研究センターの全国共同利用・共同研究拠点」継続申請に関する要望書提出の要請については、前回の理事会において、各専門部会における必要性に応じて検討していただくことを依頼することになっていたが、11月30日が提出の締め切りであったので、今後、同様事例があった場合の、専門部会としての対応を要請する文書をつけて、参考文書として専門部会長に回覧した。

2. 天野会員から、シンポジウム「茨城県北地域振興の新たな可能性をさぐる－茨城県北ジオパークをめざして－」主催：茨城大学の後援依頼があり、承諾した。
3. 日本ジオパーク委員会から、来年2月20日の記念式典の後援依頼があり、承諾予定。
4. 学術会議「学協会の機能強化方策検討分科会」から、公益法人への対応などについてアンケート調査がきた。回答締切12/26→藤本理事対応
5. 連合から、キャリアパス支援小委員会への委員を推薦依頼→佐々木会員の意向確認し、推薦した。
6. 出版著作権協議会から、平成18年度分配複製使用料は34,000円に修正連絡があった。  
なお、同協議会は、2009年1月より、有限責任中間法人出版著作権協議会となる。
7. 藤原科学財団「藤原賞」の公募。HP、Newsに掲載。締切1/31
8. 三菱財団自然科学研究助成の公募。HP、Newsに掲載。公募期間1/5-2/2
9. 消防庁より消防防災科学技術研究推進制度の公募。HP、Newsに掲載。公募期間 12/1-1/30
10. 神奈川県博から、特別展「箱根火山」の事業報告。日刊工業新聞から、2008土壌・地下水環境展の事業報告。また、計測自動制御学会から第34回シンポジウム協賛のお礼があった。

会員関係（担当理事-向山）

- 1) 入会者 3名（正2、院割1）  
（正3）丸山祐司 松本亜希子 松下 新
- 2) 退会者（正1名）積田清之
- 3) 逝去者 4名（名誉1、正3）  
藤田和夫（12/1）（藤田崇会員が追悼文を準備）  
内藤源太郎（9/4） 遠藤勝寿（11/30） 吉村尚久（12/5）
- 4) 11月末日会員数  
賛助33、名誉76、正4,333（うち院246）、準28、合計4,470（前年同期比-105）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

- ・連合法人化準備委員会（高木委員）  
3月に公益認定申請を目指して作業中  
1月からの連合の個人会員登録について、地質学会としては、高木副会長より会員登録の呼び掛け文を発信するとともに、専門部会長へも連絡して対応協議を依頼。  
連合ジャーナル運営についての検討状況  
当面は二つの道：連合として既存ジャーナルへの参画。各学協会運営ジャーナルへ連合名を入れるよう要請。  
地質学会としては、IARの編集などの独自性の確保を要望。

会計関係（担当理事-向山）

- ・会費請求書の送付、来週早々には届く予定。
- ・秋田大会の収支概算は黒字となった。概算で黒字額は約200万円であり、想定以上の参加者人数や自助努力が原因  
日本鉱物科学会の情報と合わせて同時開催の効果の検証が必要。

広報委員会（担当理事-倉本=情報特任・坂口）

- ・新法人のHPを立ち上げた（任意団体HPでリンク）。今後充実を図る。
2. 学術研究部会（部会長-石渡）  
行事委員会（担当理事・委員長-齋藤）
    - ・岡山大会見学旅行について  
シンポジウムに合わせた見学旅行の企画とそれ以外の通常の見学旅行の2本立てとする。  
見学旅行の冊子版については理事会の承諾を得たうえで発行する。
    - ・シンポジウム及び見学旅行とのセット企画の募集締め切りは12/19日締切。
    - ・地質情報展（地質学会から支援委員として齋藤理事）  
ジオパークのワークショップ、学校教育関係の発表会を各一日ずつ検討中。

国際交流委員会（担当理事-石渡=国際特任理事）

- ・モンゴル地質学会との交流協定について2009年10月にモンゴル地質事業70周年記念行事があるので、それに合わせて日本地質学会会長（または代理）がモンゴルを訪問し、国際交流の実を挙げた上で正式に現地でも交流協定にサインするのが妥当だと考える。地質見学などを兼ねて訪問すれば特に有益と思う。今後は、このような心づもりで、進めたいと考えている。モンゴル小委員会の高橋さんと、副会長のゲレル氏との間で、この件についてのやり取りをした。
- ・交流のあるアジアの地質学会に対して、クリスマスカードを発送する。

3. 編集出版部会（部会長-久田、小嶋、岩森、井龍）

- 地質学雑誌編集委員会（委員長-久田 副委員長-小嶋、岩森=企画担当）
- ・今月の編集状況は以下の通りです（12月12日現在）。  
114-12月号：論説3 口絵1（50P 校正中）
- ・2008年度度投稿論文総数117編 [論説76（和文70 欧文6）、総説19（和文19） 短報11（和文6 欧文5）、討論2 報告3 ノート5] 口絵8（和文5 欧文3）  
投稿数昨年度比 +43 査読中89編 受理済み14編（うち 論説5 短報1 口絵4 特集号4）

・投稿規定の改正

1) 「投稿規定の外国語原稿読み替え」について

日本の学会で一般に使用されている言語(英語)に限定するため、投稿規定中に「外国語」とされているものをすべて「英語」と読み替える。

2) 討論・討論の回答の英語原稿

Ⅲ. 1. 論説・総説・短報・報告・口絵の原稿は日本の学界で一般に用いられる外国語(英語)でもよい。

↓

<修正追加>

Ⅲ. 英語原稿

1. 論説・総説・短報・報告・口絵の原稿は日本の学界で一般に用いられる外国語(英語)でもよい。当該原稿に対する討論および討論に対する回答などは、当該原稿が英語で掲載されている場合は、英語で作成する。

・査読結果に対する著者からの抗議文について(→審議事項へ)(別紙参照 8-9)

・年に1~2回、Face-to-face委員会の開催と出席者への旅費の援助について(→審議事項へ)

・保証書項目追加についての答申  
編集委員長の諮問に対する上砂法務委員長からの答申を承認。

・地学教育に関して新しいカテゴリーの新設を検討したが、従来のカテゴリーでも対応可能ということで、編集委員会としては新設しないこととした。

Island arc編集委員会(担当理事-井龍, 事務局長-竹内圭史・角替敏昭)

・編集状況報告(別紙参照 10)

18-1まで順調に編集作業が進んでいるが、一般投稿が若干減少傾向。

・竹内事務局長から、アイランドアークの編集団体等について検討されるときは、検討当初からW-B社を加える旨の申し入れが、W-B社からあったとの連絡があった。

・著作権について契約変更の希望がBW社からあり、正式文書が来れば検討。

・IAR賞選考中。

・Google Earthの使用について、規定を検討中。

企画出版委員会(担当理事-藤林)

・屋久島探検マップは、年度内の印刷になるよう努力中。

12月中旬に地学教育委員会側の修正意見を付けて、現地作業側へもどす。

図や写真などの著作権については、文書交換を行う予定。

4. 普及教育事業部会(部会長-矢島, 藤林)  
地学教育委員会(委員長-阿部国広)

・ウェブページが立ち上げ準備中。

・指導要領変更などの影響もあり、地学教

員増加が課題。

・情報化に強い教員の会員などに協力要請。

地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」(矢島)

・小学校教員向けの副読本作成中。

国際地学オリンピック日本委員会(久田)

・第2回国際地学オリンピックの報告

・12月10日、第3回国際地学オリンピック台湾大会(09年9月)の参加者の応募が締め切られた。応募者は全国83校686名で、前回のほぼ2倍。12月21日に全国各地の大学・高校で一斉に一次試験(筆記試験)が行われ、2月に結果発表。3月29日(東京大学の予定)に2次試験実施(実技試験・面接)。なお、今回の選抜試験は、第1回日本地学オリンピック大会を兼ねる。(参考 生物オリンピックは2400名応募)

・近い将来に日本で国際地学オリンピックの開催を予定している。これに対するJSTからの補助金は、参加国数および参加者数が今の状態では望まず、自助努力となる。

5. 各委員会等

ジオパーク支援委員会(担当理事-佃, 委員長-天野)

・ジオパークのパンフレットを作成中。

・日本ジオパーク委員会(高木委員)

12月8日の第4回委員会で日本ジオパークネットワーク登録の7地域を決定。2009年2月20日設立予定の日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ、認証式を実施。

アポイ岳, 洞爺湖有珠山, 糸魚川, 南アルプス(中央構造線), 山陰海岸, 室戸, 島原半島

法人化作業委員会(担当理事・委員長-渡部)

・第6回委員会4役会議と合同で開催(12/13)。

6. 地質の日委員会(藤林委員)

「地質の日」(5月10日)のロゴが決定。作者は彦根 正さん(東京都)。Geology Dayの「G」をベースに、重なる「地層」を組み合わせ、「地質の日」の広がり表現。全国の「地質の日」に関連した行事、印刷物に使用可。

○審議事項

1. 著作権利用規定に関して(坂口理事)

写真・図・イラストなどの利用や取扱いについてのルール作りの必要性が指摘。地質学会が著作権を持つ出版物は地質学雑誌、年会の講演要旨、巡検案内書のみであり、ニュース誌の記事は基本的に著作権譲渡を受けてい

ない。

これらに対する今後の対応として、以下のように検討した。

著作権は著者に残して地質学会として限定的に利用する書式を作成。

学会の企画によって著作権譲渡を受ける書式を作成。

ニュース誌には、写真や図などを著作権が著者にある旨を記す。

2. 編集関係

1) 査読結果に対する著者からの抗議文について

久田編集長および高木副会長から経緯の説明を受けた。

査読結果を尊重しつつも、理事会としては、掲載する方向で検討することとした。

2) Face-to-face委員会の開催と出席者への旅費の援助について

地質学雑誌編集委員会は、全ての会議はMLを利用して行っているが、編集委員同士の意思の疎通のためには、Face-to-faceの委員会を開催することも重要であると考えて編集委員会内で検討した。

Face-to-face委員会の開催について：賛成：15名、(どちらかといえば)反対：1名  
編集委員会からの提案

(1) とりあえず2009年の総会時にFace-to-faceの編集委員会を開催する。それが有意義であれば、年会時にも開催を考える。

(2) 編集委員会のためだけに参加する委員には旅費の援助をする。

→理事会としては、地質学雑誌の編集委員会のみ旅費支給という扱いはできない。編集委員会でも再度検討していただくこととした。

3. 法人関連事項

1) 今後のスケジュール

新法人の理事会(会員・事業・財産の受け皿を整える)

任意団体の解散総会(法人に会員・事業・財産を引き継ぎ、解散を決議)

法人理事会(受け入れを確認)

法人総会(理事会の決定を了承)

2) 予定としては公益認定を受けてから上記の解散と法人への引継ぎを行うつもりだったが、以下のような観点から、引継ぎを早めるほうが望ましい状況であるとする。

・法人になって参画できる事業に早く参画したい。

例えば、教員免許更新講習、最短では2月半ばまでに申請の必要性(法人のみ申請資格)があるのと、公益認定申請時の書類に法人の実績があったほうがよい

・税金は非営利法人であれば公益認定の有無は大きく影響しないもよう

3) 今年度末に法人への引き継ぎが可能かどうか、早急に検討を開始する。

スケジュールは以下の予定

3月の法人理事会ですべての規定などを整える。

- 4月上旬で解散  
5月の総会は新法人としての総会
- 4) 準備活動
- ・事業計画や予算案の提出, 規約類の整備などのために, 支部や専門部会, 委員会などに協力を依頼する.
  - ・現状の引当金などについて整理し, その用途や活用方法について検討する.
  - 基本財産化(例えば, 現在の基本財産+引当金から相当額を充当)  
残りの引当金の使用方法を考え, 初年度の事業計画と予算案に反映させる.
  - 事務所内の整備, インフラ整備.
  - 会員カード 受付や支払, CPDに活用  
他学会の業務の一部委託.

#### 4. その他

- 1) 臨時総会議事録の確認をし, 12月号に掲載することとした.
- 2) 4月以降の事務局体制についての検討
  - ・橋辺さんには参与として契約をして引き続き勤務していただきたい.
  - 待遇などは公務員の給与規定+学会の財務状況.
  - ・正規職員2名体制では不足なので, 4月以降1名補充する. 当面は, 非常勤の形で雇用.
  - ・新たに事務局員の中から事務主任を設け, 事務局の業務管理をしてもらう.

## 2008年度 第9回理事会 議事録

2009年1月26日  
日本地質学会  
会長 宮下純夫

期 日: 2009年1月10日(土)

13:00~17:00

場 所: 地質学会事務所

出席者: 高木副会長, 佃副会長, 渡部常務理事-藤本副常務理事-井龍 石渡 岩森 上砂 齋藤 坂口 久田 藤林 向山 矢島(各理事), 橋辺(事務局)

欠席者: 宮下会長, 倉本 小嶋

\* 成立員数(12/17)に対し, 出席者14名, 委任状 2名, 欠席者 1名で, 理事会は成立.

#### ○報告

1. 運営財政部会(部会長-上砂, 向山, 倉本, 坂口)  
総務委員会(委員長-上砂)  
連合のキャリアパス支援委員会委員の推薦: 佐々木和彦会員に了解していただき, 年末に承認のうえ推薦した.

会員関係(担当理事-向山)

- 1) 入会者 4名(正1, 準3)  
(正) 寺延興三 (準) 下嶋健太 村大光 右近さよ
- 2) 退会者(正1名) 佐藤二郎
- 3) 逝去者 1名(正) 金子史郎(2008/3/14) 林 行敏(2008/6/16) 堀江正治(2008/10or11)
- 4) 12月末日会員数  
賛助33, 名誉75, 正4,326(うち院246), 準28, 合計4,462(前年同期比-109)

地球惑星科学連合(久田連絡委員)

- ・連合法人化準備委員会(高木委員)
- ・News誌1月号に連合の個人会員登録の記事を掲載, 20日のgeo-Flashにも広報予定.
- ・連合の第1回社員総会および整備委員会(法人化準備会から改称)が12日に開催.

#### 2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長-斎藤)  
岡山大会準備状況について

- ・準備委員会は岡山大会の運営企画等について, 業者に一部任せを予定し, すでに業者との間で打ち合わせを行っている. 学会へは15日に業者が説明と打ち合わせに来る予定.

- ・理事会は, 岡山大会準備委員会から提案の, 運営企画の一部を業者委託する方針を了承. 大会事業収支については大会ごとの収支相殺が原則であり, 不足が生じた場合は学会開催の引当金を用いて調整をしている. 今後は会員の少ない支部等での開催を容易にするためにも, 開催のインフラベース部分については学会として, 財政的な下支えを行っていく方針とした. なお, 方針は, 今後全ての大会事業について適用する方向で検討することとした. なお, 岡山大会の業者委託の収支見直しなどについては, 行事担当理事が業者側と面談し, 以下の点を詰めることとした.

- 1) 業者のインセンティブ部分(広告収入など), 旅行者者などとの再委託の契約内容など.
- 2) 業者決定に際しては業者の概要なども調べた上で, 相見積りをとる.
- 3) 受注業者側の事情により, 業務の実施が困難となるようなリスクも想定し, 対応策を提示させる.

・シンポジウム 8件

- 「坂野昇平追悼シンポジウム」世話人: 平島崇男・榎並正樹
- 「都城秋穂追悼シンポジウム」世話人: 丸山茂徳・磯崎行雄(見学旅行企画)
- 「高Mg安山岩とアダカイト: その起源, テクトニクス, 大陸地殻形成における役割」世話人: 巽 好幸・田村彦彦ほか(見学旅行を企画)
- 「日本列島構造発達史」世話人: 磯崎行

雄・丸山茂徳(見学旅行を企画)

「3次元地質モデルの構築手法と利活用」世話人: 升本眞二・木村克己・根本達也・古宇田亮一

「中国地方における第三系の諸問題—新たな地平をめざして—」世話人: 沢田順弘・酒井哲弥・入月俊明

「科学を文化に—学校教育・地学分野のこれから—」世話人: 藤林紀枝・芝川明義

・三次徳二・矢島道子・七山 太

「ちきゅう」による南海トラフ地震発生帯掘削計画ステージ1と2の成果(総括)」世話人: 木下正高・芦寿一郎・木村 学・齊藤実篤・山口飛鳥・氏家恒太郎・坂口有人(見学旅行企画)

・見学旅行

野外巡検説明会を公式行事として行う. ポスターボードを用いた野外巡検の紹介. 成功すれば定番化.

- 1) 地質学の定番の学習・教育スタイルの重要性を会員に再認識してもらう
- 2) 地域地質の情報が会員に共有されること
- 3) それぞれの巡検企画が注目を浴びることによって良いものになること

国際交流委員会(担当理事-石渡=国際特任理事)

- ・交流協定を結んだ韓国, タイおよび中国, フィリッピンの地質学会に対し, ニューイヤーカードを送った.
- ・韓国地質学会から, 石渡担当理事あてにニューイヤーカードが届いた. 学会宛に受領した海外からのカードなどは, 今後HPに掲載することとした.

3. 編集出版部会(部会長-久田, 小嶋, 岩森, 井龍)

地質学雑誌編集委員会(委員長-久田 副委員長-小嶋, 岩森=企画担当)

・今月の編集状況は以下の通りです(12月12日現在).

114-12月号: 論説3 口絵1(51p. 12/26発送)

115-01月号: 論説3 口絵1(50p. 校正中, 新表紙も合わせて校正中)

・2008年度投稿論文総数(2008年12月25日) 121編 [論説79(和文73 欧文6), 総説19(和文19) 短報12(和文7 欧文5), 討論2 報告3 ノート5] 口絵9(和文6 欧文3)

・投稿数昨年比 +40 査読中77編 受理済み10編(うち 論説3 短報1 口絵2 特集号4)

・編集規則(編集規約・投稿規定等)を一本化するため現在作業中

1月中を目処に編集委員会で検討, 規則の下に細則類をいくつか定める予定

・編集委員の交替 角和善隆→七山 太(堆積部会選出)

- ・特別号原稿査読への抗議文への対応について
- 前回の理事会決定に基づき、改めて原稿や査読過程について検討を行った結果の報告を正・副編集委員長から受けた。編集委員会としては当初の査読結果を見直し、引き続き原稿修正を要求し、通常の投稿論文の査読作業を続行する方向で進める方針であり、理事会もそれを了承した。著者からの抗議文については、編集委員会に対応を一任した。

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

- ・編集状況報告（別紙参照）
- 2008年度は620pの予定
- 特集号が多く、一般受理原稿の掲載までの時間が長いため、一般投稿が減少傾向、投稿呼びかけの必要性がある。
- Journal HP変更
- 編集事故対応として、写真や図の解像度、文字指定等についてW-B社との間で新たなスタイルを検討。

企画出版委員会（担当理事-藤林）

- ・国立公園地質リーフレット：「屋久島」の次の候補として「上高地」を打診したが、来年度の出版は不可能という回答であった。現在行っている環境解析の成果を盛り込んで平成22-23年出版の可能性を模索する予定。ジオパーク申請箇所を検討を進めるなど、今後その他の候補地に打診する予定。
- ・「地学読本」：原田会員により3月出版の予定で順調に進行中。
- ・地方地質誌
- ・地質環境の長期安定性に関するリーフレットについては、1月中旬に原稿完成を予定。

4. 普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

- ・岡山大会でシンポジウム「科学を文化にー学校教育・地学分野のこれからー」を開催する予定。新学習指導要領などの話がメインになる予定、シンポジウムのタイトルについては、もう少し検討する。
- ・教員免許更新講習
- 藤林理事が窓口となって文科省へ問い合わせ中であり、1月中旬に回答が来る予定、講習への参加のあり方も含めて引き続き

検討。

地学教育委員会（委員長-阿部国広）

- ・高校教育指導要領改訂へのパブリックコメント、1月21日締め切りで現在とりまとめ中。
- 提出コメントはHPやニュース誌で報告
- ・地学教育MLの拡充化中
- ・屋久島探検マップは1月末には原稿完成予定。

地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（矢島）

- ・高校教育指導要領改訂へのパブリックコメント作成中
- ・小中学校理科内容検討中
- 国際地学オリンピック日本委員会（久田）
- 12月21日に1次選抜が行われた。682名と予想を大幅に上回る参加者数。

5. 各委員会等

支部長連絡会議（担当理事-高木）

- 支部規約の整備について、法人化に伴う理事会モデル案の再検討を行う。

JABEE委員会（委員長-天野）

- ・日本技術者認定機構においても、法人化の検討が進み4月に一般社団法人として登記の予定。現在の会員（80学協会）がそのまま移行する予定。法人化後も会費等の基本的なことは変更しない。設立時社員は、現公益法人に限った。
- 公益認定の申請については、特段のメリットがあるかどうか今の時点では判断できないので現時点では積極的に進める、との説明であった（12/25事務局長会議）。

法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部）

- ・税金関係
- 1月18日に向山理事、橋辺事務局長が神田税務署で質問
- 税務署も手探りの状況で学会としての大きな方針変更の必要はなし
- 学会の事業の中で指定33業種にはいるものがあれば、その収益は課税対象
- 都税については、別途行う。
- ・事業計画と引当金などの処理を2月中旬に議論する。
- ・法人の各種規則類の整備が喫緊の課題である。

法務委員会（担当理事・委員長-上砂）

- ・15日に委員会を開催し、除名申請、地質学会3規則、国立公園、天然記念物等の調査について検討する予定。

名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事-佃副会長）

- ・会長、副会長、評議員、専門部会長に対し、推薦依頼を行った。推薦の締め切りは2月13日とする。審査を行い、4月の評議会で決定。リストを閲覧した。

6. 地質の日委員会（藤林委員）

- ・地質学会員にニュース誌などで地質の日の活動に積極的に関わろう呼びかける。
- ・地質の日事業推進委員会の活動
- ポスター作成。
- ・昨年活動をまとめて掲載した地質ニュース（2号分）を増刷配布。原稿料は活動費に。
- 文科省が地質の日を認知するよう働きかけ中。

7. 学術会議関連報告（佃副会長）

- ・第21期の連携会員、分科会なども決まった。
- ・IUGSの分科会 12月に会議実施。斎藤靖二氏が継続して分科会委員長、佃副会長が幹事、その下の各種委員会のメンバーを選考中。

#### ○審議事項

1. 法人規約類

- 1) 支部規約モデル案の再検討と支部のあり方について
- 各担当理事はモデル案が法人法や定款にあっているかどうかを確認する。
- 会計や事業計画などについて見直したうえで、全支部に共通の支部規約モデルを作る。

2) その他

- 担当理事は規約の整備作業を急ぐこと。

2. その他

- 1) 査読結果に対する著者からの抗議文への対応
- 編集委員会報告事項に記載。